FRIDAY, JUNE 21, 1929. NO. 10648

The Japanese American News

第一万六百四十八號 【日曜日】 昭和四年六月廿一日

日米

THE JAPANESE AMERICAN
PUBLISHED DAILY AT
650 ELLIS STREET
SAN FRANCISCO CALIFORNIA
PHONE: PROSPECT 0235 - 0239
ENTERED AT S. F. POST OFFICE AS SECOND CLASS MATTER
K. ASIKO, EDITOR & PROP.
SUBSCRIPTION RATES IN ADVANCE
DAILY.....ONE YEAR..... $11.00
DAILY.....SIX MONTHS..... $6.00
DAILY.....ONE MONTH..... 1.00
SINGLE COPIES..... 5 CENT

日本語は第二外國語

第二世教育に對する考査

太平洋沿岸を巡視して在留同胞事情を詳細調査して帰途についた安部磯雄代議士はその出發に際して第二世教育問題について感想談を述べているが、その中に「日系市民は飽くまでも立派な米國民として純米國式に教育すべき教育と親達愛國心の餘り日本的教育を施すことは誤りである、大和魂を彼れ等に鼓吹する必要はない」と云つてゐるが、吾れ等も至極この意見には同感であるが、多數の同胞中この意見を抱いてゐることは思はれる。

（二）

最近在米同胞に日本語教育の熱が非常に高まり、日本語學校の國、各地に設置せられてゐる、日本語を教授する目的は日本語を尊び及び日本魂を保存する上に於いて非常な結構なことに相違ないが、日本語教育の盛んなる餘り動もすれば日本語教授と日本教育を混同せんとする傾向のあるのは遺憾である、日本語教育はふまでもなく日本語を教授するのが目的であつて、日本教育の主旨は大和魂を鼓吹したり、日本に忠君愛國を教へ、所謂ではない、動もすれば親達の中には學園を誤解しあるものもある様子である、國民教師たちには左様の考へはないであらうが、關係者や親達の中には左様な希望を抱くものも尠くないかも知れぬ。

（三）

「日本語の教育は思想教へるのでなく外國語を教へる程度であらねばならぬ」と安部代議士が云つてゐる、邦語學園は帝國主義乃至は國家主義の如き思想の涵養をするならば、曾て米國政府が取締つた當時の如き問題、惹き起さないとも限らぬ、日系市民といへども、日本人の血を受けた立派な日本人である以上、その祖國の言葉を體得して親達や祖國人と意志の疎通をはかり祖國の事情を研究し又日本人と米人の間にたつて彼れ等の取引を行はしめ、大にして日本の文化、日本の美點を米國に紹介して日米親善のために盡すべき使命に立たせられてゐる譯であるから日本語の必要なことは言ふまでもなかりそして日本の思想まで鼓吹する必要はない、野蛮學園に教へる日本語は第一の外國語教へるといふ程度であらしめれい

（四）

更に安部氏は「米國ハイスクール卒業生の日本專門學校入學許可の問題も以上の意味において第二世の教育のためには便法であるとはいへ、その以外に別段のことはあるまい」と附言してゐるが、吾れ等卒業生が日本の專門學校入學を施すことの愚なることを說いて、事情やむを得ざるものであつて、事情の如何は米國永住する同胞がその子女を米國式に教育するのが最も當を得たことである、米國のハイスクールを卒業して在留して帰途に就いた安部磯雄代議士はその出發に際して第二世教育問題について感想談を述べているが、その中に「日系市民は飽くまでも立派な米國民として純米國式に教育すべき教育と親達愛國心の餘り日本的教育を施すことは誤りである、大和魂を彼れ等に鼓吹する必要はない」と云つてゐるが、吾れ等も至極この意見には同感であるが、多數の同胞中この意見を抱いてゐることは思はれる。

（二）

最近在米同胞に日本語教育の熱が非常に高まり、日本語學校の國、各地に設置せられてゐる、日本語を教授する目的は日本語を尊び及び日本魂を保存する上に於いて非常な結構なことに相違ないが、日本語教育の盛んなる餘り動もすれば日本語教授と日本教育を混同せんとする傾向のあるのは遺憾である、日本語教育はふまでもなく日本語を教授するのが目的であつて、日本教育の主旨は大和魂を鼓吹したり、日本に忠君愛國を教へ、所謂ではない、動もすれば親達の中には學園を誤解しあるものもある様子である、國民教師たちには左様の考へはないであらうが、關係者や親達の中には左様な希望を抱くものも尠くないかも知れぬ。

（三）

「日本語の教育は思想教へるのでなく外國語を教へる程度であらねばならぬ」と安部代議士が云つてゐるが、邦語學園は帝國主義乃至は國家主義の如き思想の涵養をするならば、曾て米國政府が取締つた當時の如き問題、惹き起さないとも限らぬ、日系市民といへども、日本人の血を受けた立派な日本人である以上、その祖國の言葉を體得して親達や祖國人と意志の疎通をはかり祖國の事情を研究し又日本人と米人の間にたつて彼れ等の取引を行はしめ、大にして日本の文化、日本の美點を米國に紹介して日米親善のために盡すべき使命に立たせられてゐる譯であるから日本語の必要なことは言ふまでもなかりそして日本の思想まで鼓吹する必要はない、野蛮學園に教へる日本語は第一の外國語教へるといふ程度であらしめれい

（四）

（五）

元來、米國には又米國だけの立派な教育機關が設けられてゐて決して日本のそれに比して遜色のあるものは思はれぬ、否寧ろ出色のあるものが多く、日本からも多數留學に來てゐるではないか、目下存在する邦語學園も以て邦語教授に完全なものはいひ難いかも知れぬが、米國に生れ米國で將來活動せしめ國に帰る第二世をして國を苦しまいまでに教育するが最も當を得たことである、われ等は飽くまでも第二世は米國式に教育し、たゞ日本語の教授は第一の外國語教へる程度において彼等に教へることを以て理想とするものである。

意見としては結構 實際の軍縮は至難

米國自身何等の成案も持つてゐぬ

ドウズ氏が投げた波紋

（ワシントン十九日合同）駐英米大使ドウズ氏の演說は世界に反響を與へたるが、夕刊スター紙はドウズ氏の演說の重點は軍縮の問題を專門家から取あげて政治家の間樂にせよと明確に指示したことにあり、それ以外の點ではすべては未知數であると論じてゐる。「ドイツ一艘としては軍縮問題に大して興味を有してゐない」米國の接近については可成り願をなやましてゐる

（東京二十日電通）駐英米大使チャールス、ドウズ氏が着任早々ロンドン、ビルグリムス協會で試みた軍縮演說は同日同夜のマクドナルド首相の獅子吼とならんで世界的の波紋を投じるるが右に對する日本海軍の觀測は

「軍縮協定といふことは難事業であるが誠意次第で見込みのないことはない英米二國の意氣込みから見て不可能とはいへまい」しかしながら、ドウズ氏所謂「輿論力の尺度」なるものが果して見出されるかどうかは疑問である。大砲の數や、噸數は經濟なぎから戰闘力を測定するのは見込みがまり科學的の正確は期待し難ぬ故、各國とも自分勝手な尺度をつくりその折合は政治家だけでやるとしても曾か常な努力を拂はぬかぎり困難だと思ふ。各國そろつて非

（ベルリン二十日合同）ドイツ新聞紙のドウズ＝マクドナルド演說に對する批評は概して縮の意味もまた、自由黨の行動に影響するであらう。彼等にして、敏活に本問題に手をつけ、理解と精力とをもつて解決に當らうとするならば、自

（ロンドン十九日合同）十八日夜の米大使首相の演說はいまやロンドン言論界の耳目を占領した感があり一般好感を持つてゐるが、その劇的な出發にかゝはらず軍縮事業はしかく容易ではないであらうと批評界は見てゐる

問題は次の一歩がいづれの方向に踏み出されるかにあり、その點何等の示唆もあたへてゐぬ兩者の演說に不滿の聲も起つてゐる

次の一歩は一般の觀測とは逆

伯號 訪日飛行

七月中旬と決定

（東京廿日電通）獨逸ツエペリン飛行船は七月十八日頃訪日の豫定なので霞ケ浦航空隊では歡迎の準備をいそいでゐること

抽象的だ

問題は次の一歩

英言論界

（ロンドン十九日合同）首相の演說はいまやロンドン言論界の耳目を占領した感があり一般好感を持つてゐるが、その劇的な出發にかゝはらず軍縮事業はしかく容易ではないであらうと批評界は見てゐる

問題は次の一歩がいづれの方向に踏み出されるかにあり、その點何等の示唆もあたへてゐぬ兩者の演說に不滿の聲も起つてゐる

次の一歩は一般の觀測とは逆

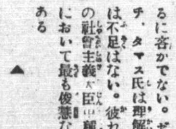
軍縮には 吾關せず

獨逸の態度

（ベルリン二十日合同）ドイツ新聞紙のドウズ＝マクドナルド演說に對する批評は概して縮的「外交政治評論」紙は「右向の御說によつて英米が海軍々縮に一層決定的態度に出ること

自由主義と自由黨の立場

自由黨々首 ロイド・ジョーチ 〔4〕



▲ 新勞働黨政府の失業問題への態度もまた、自由黨の行動に影響するであらう。彼等にして、敏活に本問題に手をつけ、理解と精力とをもつて解決に當らうとするならば、自由黨は必からなる援助を與へるに吝かでない。ゼー、エフ、タマス氏は理解と精力とは不足はない。彼れはすべての社會主義者の臣下の種々なる點において最も優秀なる人物である

▲ 私はこの故に、失業問題につき、強に研究の手を下されることを心ひそかに信じてゐる。有金且根本的な、なすべき仕事の計畫はいくらでも眼前に横たはつてゐる。選

▲ 然し、自由黨は、議會においての行動を、他のいま一つの考慮によつても左右されてはならぬ。それは去る總選擧の結果として表面にあらはれた問題で即ち英國選擧制度の重大なる不備を修正するといふ緊要問題これである

▲ 私がすでに指摘したが如く、わが黨の當面者數は英國における自由黨勢の飛躍的發展を何等反映してゐない わが國に如何に自由主義が理解されたかといふことは今年の選擧における自由黨の總投

▲ 現下の選擧制度は民主々義を愚弄せしめるものである。現下においては、反對黨の總得票數百萬票も多數なるにかゝはらず、議會においては勞働黨が絶對多數を制する。

東京に着いてから歡迎攻めに逢ふ

カーチ子ギー財團派遣のシムズ記者が報道

カーチギー平和財團の主催に坐したその間で開催されるグランド、オールドマンたる大隈侯が對獨ボイコットにおける日本人種惡感論を一蹴し、日本帝國としては世界一職に附してゐたが、横濱着以で最も美しいものだと賞めたゝ、来日よの官民より歡迎攻めに逢ねてゐる。

東京駅頭を通信してゐる。東京着後々一週間に四十七組わたら歡迎プログラムにおよび上陸當日は日本記者團の花月における大歡迎會にのぞみ日本クラブ、三井、岩崎両男、徳川侯爵、桑港雨、吉田外務次官、鐵道大臣や郵船、大魚料理で、鬱者の節りを見物し、平常關係委員會、パン、アメリカン、クラブの招待會等枚挙に暇なく、常時に寄附した賞金で遊ぶ程であつたが、ノー、ダンスト最後に強く附加してゐる。

その他記者團のまねかれた重なるパーティーは大隈侯爵司會の貴族院、貴衆両院、外務、海軍、大蔵、農商務、逓信、鉄道、内務、文部、陸軍、海軍、宮内、拓殖、法制、内閣、枢密院、陸軍、海軍、外務

社會事業家大會へ 日本からの諸代表

大洋丸で來桑の予定 二十六日から開かる

來る二十六日より當市で開かれ細田竹子嬢が出席するが、桑港で米國社會事業大會へは日本クロニクル紙は兩女史についてよりと有名な犯罪學者、司法官及び社會事業家の多數出席することは既報の通りであるが、一行は來る二十四日入港の大洋丸で來桑し、會議に列するはずで期は十日間に及んでゐる。今日本側代表として出席する人々は左の通りである

大阪幼年裁判所判事　小岩井久平　豐玉監獄の前典獄　有馬四郎助　横濱家庭學園長　(女學の感化院)　有馬純彦　東京孤兒院副院長の北村高義　兵庫縣の司法官　中村直吉　神戸社會局長　木村芳吉　日本ボーイスカウト聯盟の蘆屋泰三　婦人代表諸氏は日本女子大學の勝田女史、女史に太平洋關係田女史と共に大會で社會事業委員會の代表として出席するよし、大阪、博愛協會代表として

米國在住してゐるので米國でもよく知られてゐるが、コロンビヤ大學で哲学博士の學位を得たほか久平　豐玉監獄の前典獄の才媛である。本社長安藤子馬四郎助　横濱家庭學園長の才媛である。女史夫人は極親しい仲である。女史は日本女流教育家との間に思想上の大衝突を演じ大いに新思想のために苦闘をつゞけてゐる方である。

婦人運動の先驅者 勝田女史は

勝田女史は米國に十五ケ年間も在住してゐるので米國でもよく知られてゐるが、コロンビヤ大學で哲学博士の學位を得たほか久平　豐玉監獄の前典獄の才媛である。本社長安藤子馬四郎助　横濱家庭學園長の才媛である。女史夫人は極親しい仲である。女史は日本女流教育家との間に思想上の大衝突を演じ大いに新思想のために苦闘をつゞけてゐる方である。

米國議會は 夏期休暇に入る

上院は八月十八日 下院は九月廿三日再開

上院内のデンチュアー問題税問題に對して上院

(華府十九日)　農村救濟案の解決　議會はネツトー休息といふ所で、本日よりいよ〳〵上院は夏期休暇に入つたが、上院は八月十八日まで休會し、その間に、上院財政委員會は、議に下院から突附を見た關税修正案を審議する筈で、上院再開と共に直ちに上院本會議へ交附されるであらう。而して下院は九月二十三日まで休會して、その頃までには

農村救濟案の態度も確然となるであらうかいよ〳〵上院と下院とが兩影十箱といふほど冷藏庫に、つ

一昨日出帆のさいべりや丸ではクヒアピア街でパイン街近くに新者の關税問題に對する意見の間み込まれて日本に輸送されたが、造ひ號を調停和解せんとするにもちろん之れは商賣用のもので

結局農村救濟案の如くなく米國の、おれきれきより日

(華府十九日)　農村救濟案の解決　議會はネツトー休息といふ所で、本日よりいよ〳〵上院は夏期休暇に入つたが、上院は八月十八日まで休會し、その間に、上院財政委員會は、議に下院から突附を見た關税修正案を審議する筈で、上院再開と共に直ちに上院本會議へ交附されるであらう。而して下院は九月二十三日まで休會して、その頃までには

ハチジユー 日本へ

何んとまあ 高價な贈物

夏になるとアラスカ沖に氷山が流れ出すので米國の氷山警戒船が巡邏してラデオで商船に知らしてゐる眞黄はは氷山警戒船タムパ號より氷山を眺む

涼しい 景色

同胞農業家を 滿洲へ招聘の議

近く詳報に接する筈にて 佐藤氏に三十四万圓出資

南滿鐵道會社では今回滿鐵農事會社と株式會社なる傍系會社を組織し、農業經營者との間の細目を決定し、既に報道した所であるが、元當地に在住してゐた現滿鐵屬託の千葉豐治氏が新會社の專務取締役に就任して活動することになり、差あたり在米同胞農業家中で

歸國希望の人々より 家族同伴

も農業方面に經驗ある老練家を招聘して實際に農業經營にあたらしむるはずで、すでに在日當局者間の調本氏を通じて各方面へ、四萬圓といふ巨費を出資してゐるから同氏は米國で得た農業上の經驗を滿洲の地で自由に發揮し得る譯である

農業經營者との間の細

則は、いづれ近く千葉氏より通告に接するはずであるから通告次第第一の大劇場、世界最美の劇場といふ振れ込みであるが、見てからうといふ。なほコルサの米耕作家として知られてゐる佐藤信元氏は本年限り加州を引上て

滿洲へ轉住すの模様によつては、同胞中の農業家招聘問題は急轉直下的に進捗を見るであらうといふ。なほ

競爭でなく 奬勵が

展覽會の眼目 誤解なきやう

今回の學藝品大展覽會は決して競爭の意味ではなく、一般に學問奬勵の氣風を養成せんとするのが、その主眼としてゐるのであるから、この點は各地學園

師、氏民のみならず父兄諸氏も篤と御了解の上、誤解なき様至急出品して今回の展覽會を盛大ならしむるよう極力盡力ありたしと主催者側では希望してゐる

野口氏と 水津重役

ヨセミテより 一昨夜歸桑す

正金銀行重役水津氏は當市同行支店長野口氏と共にヨセミテを見物中であつたが、一昨夜歸桑し

暁星學院新築校舍 地鎮祭を執行

來る三十日同所で ハンナ大司教司式で

大枚五萬五千弗を投じて目下オクヒアピア街でパイン街近くに新校舍建築中の暁星學院では、一昨日地鎮祭を行ふことになつたが、來る三十日(日)午後三時より同新築ホールにおいて大司教ハンナ師によつて地鎮祭を行ふことなつたが、當日は米人側より多數の知名の人々が出席することになつてゐるといふから日本人側からも

つとめて多く出席を希望すと

夏季講習

美以教會

來る二十四日月曜日より美以教會日曜學校の夏期講習を開催する。期日六月二十四日より十二日まで三週間、一、時間午前九時より正午まで

このよき催しを多くの母様が子供様方のためよき御利用下さるやうおすゝめ申上げます。

花園業 發展史

愈々發刊

吉山基德氏二編纂中だつた「加州日本人花園業發展史」は金門

サンノゼへ 出張延期

瀧本書記長が

在日會の書記長瀧本氏は昨日本日サンノゼ方面へ出張の豫定じあつたが最近サンノゼ日曜カ沖に氷山が流れ出すので米國の氷山警戒船が巡邏してラデオで商船に知らしてゐる眞黄は氷山警戒船タムパ號より氷山を眺む

亂暴の犧牲となり 若い船員送還さる

シドニー號の暴行事件を 一人で脊負ふた川崎某

一昨日發さいべりや丸でケー川崎なる一邦人が送還されたが、この青年は二ヶ月前シドニー、オシドニー號を受けるために渡米した前、果園店より送られた廿五名の一行中のものであるがさうして一人送還になつたかといふことに關しては理由は明らかになつてゐないけれども聞く所によれば一行が着桑後、人がいないために一ト先づ移民局に抑留中、移民官のため扱方に不滿が殘酷だといふので數人の若い

ものが亂暴したために移民官より責任者を出すことを要求されたが、遂に川崎なる青年が一同に代り責任者を出すことを要求されたが、遂に川崎なる青年が一同に代りを發見した時のやうに狼狽を見せるために、遂に川崎なる青年が一同に代りを發見した時のやうに狼狽を見せるために、遂に川崎なる青年が一同に代りを發見した時のやうに狼狽を見せるために、遂に川崎なる青年が一同に代り

印刷所に於て印刷中の亂暴な出版物は、五十挿入、近來あつた、總頁數は三百廿頁ばらしい大著述である。

副嶋翁建碑

鑑定をやる

故副島翁建碑委員會は一昨夜開催出席者六名、熱議の結果六月廿五日一同打揃つてサンマテオに抑留中、移民官のため扱方に石碑を鑑定に趣くことになつた。

暑い！暑い!! 暑い!!!

暑氣でバタ〳〵倒る

紐育では十名死んだ 桑港では昨日八十七度

今日から幾分涼しく

二日續いた近來に珍らしい暑氣も明廿一日から少しく低下するであらう、今廿日の最高温度は八十七度に屬つた明日も相當に暑いが西風が吹き多少柔らゆられるだらうからお風邪を召さぬ様警戒をして下さい(桑港測候所談)

海岸に殺到す

桑港の暑さ

一昨日から俄に暑氣が襲來したので何れも大慌喰らひ、昨日の如き常春の桑港にもメツキリ夏衣裳と化した。一昨日は八十二度、一九二〇年六月十九日以來の暑さ、勿論、本年の最高レコードで、一昨日この俄暑氣にアテられて三名の卒倒者がエマージンシ病院に抱込まれた

測候所で

は「季節相當の天候」と納まつてゐるのも、ソナ嶺が百十度まで上つた、ギリシヤの領事は旭蘭の演奏を聞にくい、九年前の一昨日は九州の十二度までのほつたことがあるが、一八九一年の六月廿九日に百度に達してバタ〳〵人が倒れた歴史あ想ひ出される、暑いといやふのでピーチに市民が殺倒した。

佛債決議は通過し 禁酒移管調査は

討論中のまゝ休會す

休前の議會は、二つの重要案件が附議され、思ひもうけぬ波瀾を巻き起したが、一案は一票差で本日サンノゼ方面へ出張の豫定なりしが、一案は討論終結せず。

末了のまゝ

休會となつたが、通過したのは、佛國へ戰時供給した四億弗の債權支拂決濟問題を八月一日から五月一日まで延期せんとする決議案と、これは

佛國議會

が批准したら効力を生ずる規定であり、他案は大統領フウバー氏が、禁酒法の動行機關を現在の大藏省管轄から、司法省へ移管するため國會共同調査委員會の設置であつたが、ドライ派とウエツト派の間に激烈なる論爭を演出し、結局何等の決議を見ずして討論中のまゝ休會に入つたのである

清涼一腹

桑港で作られた 新奇な類比法

日本の流行が遂に 海を越へて當地へ

英語の文人EVルーカスがロンドンの『サンデー・タイムス』に新奇な類比法を發表したので最近日本でもこれを試似て盛んに類比法といふものが新聞紙上を賑はしてゐるが記者の手元にあつまつた花留民の間から生れた類比法を左に紹介する

○邦字新聞文藝欄寄稿者のやうにキザ

○日本人町の『グロサリー』のやうに多い

○金へ金を借りにゆくことのやうに見込みがない

○法廷に出た第一世の英語のやうに役に立たない

○領事館の零ね人欄に自分の名を發見した時のやうに狼狽

○桑港領事館の菊の御紋章のやうに目に立たない

○寄附臭い行のやうに禁ねる

○師團挨拶の廣告を出す人のやうに得意

○永住論客のやうにあきらめる

○間違つて配達せられた義足の贈物のやうに役に立たぬ

○釣鐘の寄附を受けた教堂のやうに困る

○近頃の日本人會の總會のやうにさびれる

○證明保證書を失つた日本人會のやうに見放される

○社會勞働課のお役人のやうに時代おくれ

○上町と下町の商人のやうに觀みあふ

○孕まされて捨てられた娘家さんのやうに不遇

○柔道と『レスリング』の試合のやうに顧りない

○歸國挨拶の廣告のやうに目につく

○宴會に出る前『サイン』する支店長の『ペン』のやうに忙がしい

○泣く兒に男親の乳のやうに役に立たぬ

○殺盜られた娘の夢を見た時のやうに腹が立つ

天滿宮奉納額に 名譽の武名を遺し

若き弓術の達人 萩原重雄君逝く

重雄氏は

萩原茶寮經營者萩原五郎氏令息重雄氏(廿歳)は鼻血の日本武士的な教化に依り武を好みの大量出血から根本的に治療する特に弓術に於て秀で萩原公園内果敢にはかゝしから死亡した。

朝午後五時十五分死亡した。

葬式は來廿四日午後三時パインの大神宮奉納額は名譽の名を戴せ集めて過去數回催し弓術大會に毎度出場し其の度に好成績をあげ金賞も三回獲得した公園

金門公園

萩原茶寮經營者萩原五郎氏の古武士的な教化に依り武を好みの大量出血から根本的に治療する特に弓術に於て秀で萩原公園内果敢にはかゝしから死亡した。

朝午後五時十五分死亡した。

葬式は來廿四日午後三時パインの大神宮奉納額は名譽の名を戴せ集めて過去數回催し弓術大會に毎度出場し其の度に好成績をあげ金賞も三回獲得した公園

ギリシヤ音樂と 琵琶は同一系統

これを時代的に改良すれば世界的になる

目下東部旅行中の豊田旭蘭師が、このほど山中部で演奏を催し、人主催の日本の夕に出演した。

ギリシヤの領事は旭蘭の演奏を熱心に聽きその感想として同地の新聞紙に左のやうな興味ある見を發表した。

「日本の筑紫琵琶はギリシヤの音樂と類似似てゐる琵琶の音といひ歌の調といひ何等かの關係があるやうに思はれてならない、この音樂をなんとか時代的に改良を加へたなら蓋し世界的なものとなるべき可能性があると思ふ」

大洋丸は 廿四日入港

社會事業大會出席者日本代表

社會事業大會出席者日本代表十名米國人八五十二名歐州人八十二名比律賓人七名印度人三名で生絲は二千五十棚雜貨二千四百

ロスアルトス 學園組織

法人となる

ロスアルトス學園は、無州法に

前景氣よい フォックス座

演藝界便り

自動車保管及修繕、日本人優惠師フロアメン就働御用命に應じますから御出桑の節は當所へフドクオーターとなされたし日本人部自動車修繕　沼澤　アロー・グラー　Tel. 2701 Sutter St., West 5593

寄附要求者を 組合に送れ

洗染業就業者ストライキに

洗染業就業者ストライキにつき十九日朝十時ミーティングが開かれたが此頃同胞間に寄附を要求して來る寄附要求者は白人から寄附を要求して來ても組合に行けと云つてほしいと組合の意見である。

小林氏本日着

卸商組合例會

カリヤオ郵船出張所より當市支店庶務課長として轉任の小林氏は本日桑着の筈。

食用品卸商組合例會は昨日午後六時半より小川ホテルに於て開

大洋丸の 來桑

二十六日から開かる

來る二十六日より當市で開かれる全米國社會事業大會へは日本クロニクル紙は兩女史についてよりと有名な犯罪學者、司法官及び社會事業家の多數出席することは既報の通りであるが、一行は來る二十四日入港の大洋丸で來桑し、會議に列するはずで期は十日間に及んでゐる。今日本側代表として出席する人々は左の通りである

大阪幼年裁判所判事　小岩井久平　豐玉監獄の前典獄　有馬四郎助　横濱家庭學園長　(女學の感化院)　有馬純彦　東京孤兒院副院長の北村高義　兵庫縣の司法官　中村直吉　神戸社會局長　木村芳吉　日本ボーイスカウト聯盟の蘆屋泰三　婦人代表諸氏は日本女子大學の勝田女史、女史に太平洋關係田女史と共に大會で社會事業委員會の代表として出席するよし、大阪、博愛協會代表として

婦人運動の先驅者 勝田女史は

勝田女史は米國に十五ケ年間も在住してゐるので米國でもよく知られてゐるが、コロンビヤ大學で哲学博士の學位を得たほか久平　豐玉監獄の前典獄の才媛である。本社長安藤子馬四郎助　横濱家庭學園長の才媛である。女史夫人は極親しい仲である。女史は日本女流教育家との間に思想上の大衝突を演じ大いに新思想のために苦闘をつゞけてゐる方である。

涼しい 景色

温泉の素
チースプーン一杯を投ずれば 鹽泉バスタツブに溢る
定價 大瓶百五十弗 中瓶五十弗 小瓶二十五弗
回分五十仙 回分三弗五十仙 回分二弗五十仙
◎各地の食料品雜貨店及び藥店にあり
發賣元 FUJII CO. 510 Battery St., San Francisco
專賣特許 出願中

死亡廣告
繁儀論て病氣中の處藥石効なく二月十日前暁一時遂に死去仕り候間此段生前厚知諸氏に謹告仕り候追て葬儀は來る二十二日午後一時マーテン葬儀社に於て執行可仕候
桑港　父　川口晉吉
長男　同　ウ
母　同　譲
親族總代　同　御前　虎雄
友人代表　松本　豊松　ミヨシ
米久　今太郎　ウ
安井　惠喜太　譲
上野　長太郎　康雄
三枝松　謙雄
鄉原　盛太郎
鳥原　藏
和歌山縣人會代表　井戸本　保之助

移轉廣告
桑港ポスト街一五三番
電話(ウエスト)一六五九〇
(ウエスト)一七二四
壁紙張替業　竹多
桑港ポスト街一六〇二
電話ウエスト四七七三
三澤藥局

御挨拶
私事此度東部インデヤナポリスに於て能ほされる米國盲人學校に日本側代表員として出席の爲め六月廿一日當地を出發致します
歸桑の期日は追つて紙上に於て御通知致しますから相變らず御引立の程宜敷お願ひ致します
六月二十一日　桑港　田守吉弘

飲料家の福音
會樂園の改良特製麦麹は飲料家の福音百發百中間違ひなく上等のものが出來る最上等の品で好評なり
(廣)

▲相撲美代志氏　同氏は目下東京で版畫をおこして活動中だが今回左記に轉店した
東京市小石川區竹早町一九

▲小笠原氏家桑　マウンテンビユーの學園教師小笠原鎌藏氏一昨夜ポート用で出桑昨夜鎌村

▲鎌田四段南加より　南加の柔道家の同氏は昨夜桑

▲板野夫人滿桑　板野雅雄氏夫人子供同伴一昨日桑桑喜安ドクター方に滞在中日曜頃に歸櫻の豫定だと

▲サクラメント　に投宿した。

ローカル・ニユース

ソフランシスコ座は、その前景氣盛で開場當夜はスペシヤル・プログラムでスクリンスターム出場し大いに景氣をつけるがオーケストラは三年前まで當市にゐたニユーヨークに出張中だつたセツルター。ロズチーがカンダクターとなり四十名を指揮する、シカゴ以西第一の大劇場、世界最美の劇場といふ振れ込みであ

佛國製に佛國製
相馬茶店　一切用具
相馬茶　相馬園
234 E. 1st St., Los Angeles Cal.
Tel. Tucker 7990, VAndike 9495

金門貸自動車
電話フイルモア二五五七

祝餅並に赤飯
桑港ポスト街一八二三
電話ウエスト一四二八
春月堂

名物すき燒
元博多屋
ブキヤナン街一七〇九
電話ウエスト六六

御食事
桑港グラント街五四六
電話オゲラス五三三六

古買　マトレスの打ち直し
桑港オスチン街
電話　オードウエー八三七九

御食事
古タレ　(萬丸鰻軒)
生うなぎ
桑港　川原卓間殿
佐賀縣出身
郷里に異狀事故有り至急面會し度し住所御存知の方は左記迄御一報被下度候　田中熊三郎
1119 S. Pacific Ave. San Pedro

講演會
六月十六日から廿七日まで桑港日本人會ホールに於て日、火、木、土曜日夜八時パシフイク・ユニオン・カレヂ教授ネフマン氏の講演會を催ふしますから皆様振つて御來會下さい
二十日(木曜日)
題「平和の國」
主催　聖書研究所

ち
件如
米國輸入元
各地商店にあり
正
藤本商會
桑港ヤクソン街二三八

肛門藥　梅痔丸
いぼぢ、きれぢ、ぢろう、だつこう、ぢ出血、ぢの痛切らず、やかずに事業をしつゝ呑んで癒る家傳
七日分　二弗
十五日分　四弗
岡山市稲屋町南詰
肛門藥商會

野一色
放射蒸熱電氣治療機
◎約束再入國に關する書類無代進呈
R. NAKATA, 2527 Pacific Ave., Alameda, Calif.　電話　中田　Tel. 2461

ハブ草
◎胃腸◎便秘◎子供フキ出もの等
(藥料五仙)　J. YOSHIDA, 1701 Laguna St., S. F.

桑港ラグナ街一五五一
日本付者醫切斧取扱ひ
醫に出許國可證　再入
鄉可證
電話ウエスト五二一五
日本ホテル
館主　田中米吉

北米合衆國政府改横濱作横所有(通信教授部あり)
深く研究なされたき方には小幡式教方を勧めします
申込次第規則書電星送します
桑港
小幡女子裁縫學校
1310 Post St., San Francisco, Calif.

日本行小包
郵客手荷物
取扱　富士運送會社
1629 Buchanan St., S. F., Calif.

桑港ポスト街一六五〇
高等支那料理　昭和樓
電話ウオナツ二六八〇

桑港ポスト街一六〇三
柿ようかん　しなのや
電話ウエスト一七六七

◎出國再入國に關する諸手續一切◎移民局諸事項に關する交渉
◎時間的訪問者に關する御相談、ボンド積立に依る假上陸手續
◎其他何事によらず御相談に應じます
日本人間中最も御便利の社
所日本行汽船切符販賣
電話(フイルモア一九七一)
桑港ブキヤナン街六五四
エビスホテル
館主　鄉原藏

名醫紹介、フランクリン(藥品)病院通譯
高尾鶴松
ブツシュ街二〇一〇
電話ウエスト五六九五

賣店
オフアレル街ブキヤナン街角、キヤンデー、アイスクリーム、其他學校用具店、公立學校の前大至急安價譲りたし委細は左記へ
桑港市オフアレル街一四〇八
電話フイルモア八二八六
三上代理事務所

ポスト街一七六七
御食事　常盤園
電話フイルモア三八二三

桑港ポスト街一七七八
日曜祭休　小田運送店
電話フイルモア四六一

桑港ポスト街一六六一
御食事　三つ輪
電話ウエスト五四七一

新案　他人丼　美味一
名代天ぷら、鰻類特別勉强
御食事　青柳
桑港ポスト街一六九五
電話ウエスト二三二二

日本アパートメント
オフアレル街一三九四
二室三室の家具附アパートメント終日日當り良し御希望の方は日本ホテル旅館部へ御照會下さい
電話　ウエスト五二一五

Attorney At Law
Saburo Kido
城戸律事務所
1621 Webster St.
電話ウラナツ〇七四四

桑港市況

六月十九日

各種共品豐富で市況は順調

葡萄がボッ〳〵出初む

ストロベリー

着荷二三五チェスト二五〇七クレート。品質やハナレ落ちバナーユコーマンともドロップ五十仙より六十五仙。まれに七十五仙

ラスベリー、値に四八〇クレスタンダード三弗より四弗、ポートの警。値段上向いて一弗よりユニー二弗二十五仙より三弗、フラップ一弗六十仙にゆくブラックベリーは二六九クレート出荷少量であるが、取引思はしからず、値段は昨日と大差なく、クレート八十仙より一弗十仙見當

ローガンベリーは矢はりクレート八十仙より一弗見當

グースベリーはパウンド六仙より十仙の取引

葡萄

南加より少量の出荷あり、パウンド十、一仙より十五仙で取引されたり

ピーチ

出荷増へ取引まづ普通のところで第一弗二十五仙より一弗六十仙、最上一弗七十五仙止まり

プラム

サンタローザもの及びその他附品質不良のものあり、ラグ二十五仙で取り引されたものがあつた。

バスケット入りクレート一弗より一弗五十仙、サンタローザの七十五仙見當

ビーツ

出荷やゝ多く値段弱氣でケンタッキーパウンド五仙より極上八仙、ガーデン、パウンド十二仙より十五仙、ワックスは七仙より十仙見當なるが取引活潑でない

スクオアシュ

南加ものゝ出荷可なりあつたが品質不良のものあり、ラグ二十五仙で取り引されたものがあつた。

ビンス

出荷やゝ多く値段弱氣でケンタッキーパウンド五仙より極上八仙、ガーデン、パウンド十二仙より十五仙、ワックスは七仙より十仙見當なるが取引活潑でない

アスパラガス

著荷一二四〇箱取引活氣を缺いで値段弱氣グリーン、ルーズパウンド三仙より五仙、ボンチドグースベリーはパウンド六仙より八仙白ルーズ三仙半よりクラブ五仙見當

野菜類

著荷一二四〇箱取引活氣を缺いで値段弱氣グリーン、ルーズパウンド三仙より五仙、ボンチドグースベリーはパウンド六仙より八仙白ルーズ三仙半よりクラブ五仙見當

農業と經濟

日本國民の懷ろ勘定

七割を消費し三割が公課と貯蓄

日本國民はその所得の幾分か消費し、幾分を公課に納め、いくぶん貯蓄してゐるか、これはこれぞ興味ある問題で、また之れを識るは有益なることでもあるが、最近十月内閣統計局長の談として傳へらるゝところによると日本國民は大正十四年において所得の七割を消費し、一割五分を公課に納め、殘り一割五分を貯蓄してゐる。消費總額は九十億圓であるから、わが國民が消費の一割を節約するとせば九億圓が浮ぶことゝなり、現在の丸ビルが定してゐるふ勘定だといふ。毎年九十づゝ建つ勘定だといふ。しかし貯蓄額は二十億圓で、世帯當り三十四圓となつてゐるが、これには保險料が含まれてゐる。且いはゆる貯蓄銀行、郵便局、農業銀行、公營事業に支拂はれた金額等を平均したものであつて、各世帯が事實上これだけの貯蓄を行つてゐるといふわけではない。なほ公課は二十億圓とあるがこれには四億圓餘に上る官公所費も含まれてゐる

公課貯蓄及び消費額

（大正十四年調……單位總額は千圓世帯人口當りは圓）

總額　一三、三八二、三三三

一世帯當り　一、一二四

人口一人當り　二二四

公課總額二〇三三、二三三

一世帯當り　一七一

人口一人當り　一七〇

貯蓄總額二〇一九、二二一

一世帯當り　三四

人口一人當り　二一

消費總額九、三二九、八六九

一世帯當り　七八四

人口一人當り　一五六

なほわが國の消費額の内譯を推ぶに本年は十四萬トンより十七萬トン、プルーンは平年作十九萬トンなるが、本年は四萬トンより十六萬トンと見られてゐる。

斯くの如く數量において大いに減じたるが、現在の狀態より推して値段の高騰を豫期せられ價格において一千萬弗内外に減額されたるなりと、因みに昨年の産額は二億三千八百萬弗であるから、これに比べ本年は四億圓餘の減額となる。

加州果物の減收

約一千萬弗

本年加州の農作物は霜害その他の被害により產額は平年作に比し、また昨年に比しても遙に減收の見込みで、ことに重要果物十種の收量はすこぶる減收の豫想で、平年の五百十二萬一千トンに對し本年は四百十四萬五千トンに減じたるはエプリコットで平年作二十萬五千トンに對して本年は五千トンより六千トンが平年作一萬四千トンに對して本年は平年作の三十八萬トンが本年は十四萬トンより十六萬トンを豫想せられ、チェリーは平年作の一萬トンより一萬二千トン、葡萄は平年作二百八十二萬三千トンに對して本年は四百十四萬五千トンより十四萬五千トンの間と見られ、次はアモンズ平年作一萬二千トンに對して本年は五千トンより六千トンが本年は十四萬トンより十六萬トンを豫想せられ、チェリーは平年作の三十八萬トンが本年は十四萬トンより十六萬トンを豫想せられ、チェリーは平年作二百八十二萬三千トンに對して本年は四百十四萬五千トンより十四萬五千トンの間と見られ、次はアモンズ平年作一萬二千トンに對して本年は五千トンより六千

南加版

支社電話〔MU〕ミューチュアー八四一五

新移民法實施で墨人が續々送還さる

過去三ヶ月に南加だけの送還人數が二千五百餘名

南加の墨國農業または米人の生産業に密接の關係を有する墨國移民二千五百餘名が西部沿岸地方より過去三ヶ月間に送還せられたことは既報のとおりであるが、同問題につき墨國通の芝崎副領事は去る廿一日午後一時より墨國移民を嚴重に取締りつゝあるのは、否定しえざる事實である、現在アリゾナ州及加州方面より續々と墨國人を送還しつゝあるこの最大の原因は墨國人の多くが正規入國の手續をふまぬ者多く、たとへば讀みかきの出來ぬこと、公衆の扶助をうくること、犯罪を犯すこと酒類法違反、精神病等が送還の主因となつてゐる、テキサス州よりも過去三ヶ月に四千三百人が送還された、現在羅府には十五萬の墨國人が住居するが七月一日新移民實施でその内の八割は送還をまぬかれざるの立場にある、なほ新移民法實施で毎月墨國より送還される墨國移民は千五百餘に達するであろう」云々

西本願寺 布教日程

本週中左の如し

廿一日 午後七時半 エルセカンド志能氏宅出張（獨樂）

廿二日 午後七時半 ガーデナ佛教會出張（野田）

廿二日 午後七時半 パシフィック土曜學校出張（林）

廿三 午後七時半 本部日曜學校（林）

羅府商議の送別會

羅府商議の木村氏羅府郵船出張所主任木村義氏のシカゴ轉任について經過の顛末港務局に對する功を謝するため羅府商議にては二十一日（金）午後一時商議室にて送別會を開催することなつた、なほ同時に新任の牛尾氏の歡迎會も兼て行はれる

市場通ひに惡童出沒

ガーデナ方面から苺を市場に運搬してゐる西島氏はメーン街とブローレンス街にさしかゝつたところへ惡童三名現れて一人はラックの前を横切る眞似をして、スローダウンせしめ他の二人がラックの後に乘つて苺を少々もち去つたよし

錄本氏到頭死去

少校は郵職し同國の途についたので後任者を物色中本メルルかゝるとの噂もあつたが、今度羅府郵に再びもとの元のウェラー郵局長に轉任すべく命令をうけたと

和歌山縣人野遊會

日米園遊場で今月三十日に日米園遊場にてピクニックを催す和歌山縣人會にては十八日午後七時演劇の家に於て幕及ビピクニック委員會合を開き左の如くプログラムを作製した

等一式 司會者 荒古龜楠
會長 鳴海重太郎
一開會の辭 貯蓄部 森文五郎
一同 來賓代表帝國領事代理 高岡禎一郎
第二式 司會者 塚本大尉
一祝辭 貯蓄部 森文五郎
一同 來賓代表帝國領事代理 高岡禎一郎

本月三十日米遊園にてピクニックを催す和歌山縣人會にては十八日午後七時演劇の家に於て幕及ビピクニック委員會合を開き左の如くプログラムを作製した

等一式 司會者
會長 鳴海重太郎
一開會の辭 貯蓄部 森文五郎
一同 來賓代表帝國領事代理 高岡禎一郎
第二式 司會者 荒古龜楠

氏があたり各種運動競技や美人運の奇藝等のほか福引があり、七百五十弗の豪算を計上してゐるから余程にぎはふであらう

塚本大尉が古巣へ

塚本大尉は羅府日本教世軍第六小隊長に轉任

日本ガールスカウトもプールを提供

バサデナ女子青年會にて

日本人は何事にも嫌はれ勝であるが、この人種的偏見をなくすべく、日本ガールスカウトの會員は、公開するのだが、當事者は日本ガールスの參加も希望してをるが、當然希望するものは、診斷書をうけ健康狀態惡しなれば許可されず、料金は廿五仙位である。

蓬田飛行の基金募集

初日好成績

蓬田飛行の基金募集の第一日は十八日より富尾、奥武、加藤、秋井の諸氏に蓬田飛行士、永田後援會本部代表等とともに市内各有志を歴訪し募集につとめたところ心よく該事業を後援し面番地裏手の荒れはてたバーンに千五百弗の應募があつたよしにてさらに寄附募集を續行するこ

錆きつた針金で老人の縊死

去る一日朝市内第二西街千五百番地裏手の荒れはてたバーンの中に人影をみとめた隣家の小娘がアランと同道して覗をかけたが、一向返事がないので恐何うして、きびしい中をさるる」のだいて見ると、日ごろ慣ぬ男「二三、手立てがござりまする」

「輕部は、黄狀をもつて、志て、道を待たせておいた人々を集めると三十餘人一人殘らず揃をその一人々々に「今夜、暮るとともに、何々を、まるつて待つてるでもらひたい」

次の人にも「今夜くれて牛さきの後、何々まで……」

郵三の人には「今夜、丑になれば、何々まで……」

仇討淨瑠璃坂（巻）

直木三十五作

青龍、白虎 四

「とにかく、何と、誰が申ても、こゝはいやだ」

と、一徹者らしくいひはつた輕部は、「とう〳〵、三浦志摩に、人間は流れてゆくことが多いの。輕部は、宇都宮に近いこの安全を、といひたが、人々は深澤村に近いこの危險を主張した。隼人は

「とにかく、何と、誰が申ても、こゝはいやだ」

と、一徹者らしくいひはつた輕部は、「とう〳〵、三浦志摩に、人間は流れてゆくことが多いの。輕部は、宇都宮に近いこの安全を、といひたが、人々は深澤村に近いこの危險を主張した。隼人は

「長々の御庇護、いたゞいた恩は、忘れまい。輕部は、宇都宮に近いこの安全を、といひたが、人々は深澤村に近いこの危險を主張した。隼人は

迷惑を相かけ、なんとも申しあけやうもござりませぬが、お聞及びの如く、城下に不穩なる噂これあり。萬一のともがらは、何れかへ別に隱れ家を求めたいと存じをります。この儀、おゆるしくだされたく、また、お心あたりの箇所がござらば、この上

「何か、氣にでもいらぬことがあるか」

「中々、持もまして……」

「當つてまるつたら、久々、よい放養になるでせいか」

と、安心して、つよ氣なことをいつた。そうして

「もし、よそに求めるなら……諏訪因幡のもとは？」

「信州諏訪ならば、天險の地にて、よりつからうと存じまする」

「では、諏訪へまゐれ。だが、何うして、きびしい中をさるるか？」

「三、手立てがござりまする」

輕部は、黄狀をもつて、志て、道を待たせておいた人々を集めると三十餘人一人殘らず揃その一人々々に

「今夜、暮るとともに、何々を、まるつて待つてるでもらひたい」

次の人にも

「今夜くれて牛さきの後、何々まで……」

郵三の人には

「今夜、丑になれば、何々まで……」

芳江さんはシャトルへ

ソートレーキ

浦部氏は岡加州へ女婿應募事件後開

女部街のミスエリーとして英字紙が伸々しくつたへたヘルバー町日本移事主人浦部眞理次氏

嫁約 ベニス在住瀧口喜信の三氏次男喜信君はサンフアンド在住の岡山縣人江見彌之助氏長女靜子嬢と嫁約成立した。

講演 沸騰中の今井よね子女史は二十三日午後八時よりボイルハイト學園にて講演をなす

青くて不揃ひ

農家の改良を要すべき點

野遊會

日米園遊場で今月三十日に日米園遊場にてピクニックを催す和歌山縣人會にては十八日午後七時演劇の家に於て幕及ビピクニック委員會合を開き左の如くプログラムを作製した

等一式 司會者 荒古龜楠
會長 鳴海重太郎
一開會の辭 貯蓄部 森文五郎
一同 來賓代表帝國領事代理 高岡禎一郎
第二式 司會者 塚本大尉

氏があたり各種運動競技や美人運の奇藝等のほか福引があり、七百五十弗の豪算を計上してゐるから余程にぎはふであらう

蓬田飛行の基金募集

初日好成績

蓬田飛行の基金募集の第一日は十八日より富尾、奥武、加藤、秋井の諸氏に蓬田飛行士、永田後援會本部代表等とともに市内各有志を歴訪し募集につとめたところ心よく該事業を後援し面番地裏手の荒れはてたバーンに千五百弗の應募があつたよしにてさらに寄附募集を續行するこ

青龍、白虎 四

「長々の御庇護、いたゞいた恩は、忘れまい。輕部は、宇都宮に近いこの安全を、といひたが、人々は深澤村に近いこの危險を主張した。隼人は

「とにかく、何と、誰が申ても、こゝはいやだ」

と、一徹者らしくいひはつた輕部は、「とう〳〵、三浦志摩に、人間は流れてゆくことが多いの。輕部は、宇都宮に近いこの安全を、といひたが、人々は深澤村に近いこの危險を主張した。隼人は

迷惑を相かけ、なんとも申しあけやうもござりませぬが、お聞及びの如く、城下に不穩なる噂これあり。萬一のともがらは、何れかへ別に隱れ家を求めたいと存じをります。この儀、おゆるしくだされたく、また、お心あたりの箇所がござらば、この上

「何か、氣にでもいらぬことがあるか」

「中々、持もまして……」

「當つてまるつたら、久々、よい放養になるでせいか」

と、安心して、つよ氣なことをいつた。そうして

「もし、よそに求めるなら……諏訪因幡のもとは？」

「信州諏訪ならば、天險の地にて、よりつからうと存じまする」

「では、諏訪へまゐれ。だが、何うして、きびしい中をさるるか？」

「三、手立てがござりまする」

輕部は、黄狀をもつて、志て、道を待たせておいた人々を集めると三十餘人一人殘らず揃その一人々々に

「今夜、暮るとともに、何々を、まるつて待つてるでもらひたい」

次の人にも

「今夜くれて牛さきの後、何々まで……」

郵三の人には

「今夜、丑になれば、何々まで……」

隼人の父、奥平大學は、龜で送ることゝした。弟の九兵衛は、

と、時刻をちがへ、ゆく先をへ、人目に立たなかつた。

隼人の父、奥平大學は、龜で送ることゝした。弟の九兵衛は、

と、時刻をちがへ、ゆく先をへ、人目に立たなかつた。

「三行が諏訪へいつてしまつた後、この一行は、一人に、二三人づゝ、輕部と、眞夜中に、おちるつもりであつた。

人さへ無事につけば、荷物は後でよかつた。そうしておいて、輕部は、晝の間から、三浦家の人々を、江戸へゆく街道筋へは、引込ませ、夕方から、いかにも人が江戸へゆくかのやうに見せ、

「諏訪へ、一行の一人、二人が反對側から、出る時分になると、二三十人の人々を江戸の方へ、無操、灯、馬上で、赴かせた。

深澤方の人々が、もしこの一行を斬りこみでもしたら、手ぬ打つて笑へばいゝし——また、この一行に目をつけぬ法もない。

わけであるし、目をつけたならば、深澤からも相當の人數が出たならば、深澤方の動靜がわかる……と。

輕部の作戰は、功奴であつた。

かうして、方策を定めておいて、隼人を諏訪へおくすべく同時に、自分は、一度大久保加賀守に、自分は、一度大久保加賀守に、

「諏訪へ、一行の一人、二人が反對側から、出る時分になると、二三十人の人々を江戸の方へ、無操、灯、馬上で、赴かせた。

深澤方の人々が、もしこの一行を斬りこみでもしたら、手ぬ打つて笑へばいゝし——また、この一行に目をつけぬ法もない。

わけであるし、目をつけたならば、深澤からも相當の人數が出たならば、深澤方の動靜がわかる……と。

輕部の作戰は、功奴であつた。

かうして、方策を定めておいて、隼人を諏訪へおくすべく同時に、自分は、一度大久保加賀守に、

グッド城岩

太陽光線治療器 禾田墨代理 有働貞三 羅府市東一街三五五番本願寺建物三階 855 E. FIRST ST. Los Angeles, Calif.

●胃腸ダイゼリン 十日分 一弗五十仙 卅日分 四弗 切なる急性慢性の胃腸病も徹底的に根治せむる確信を以て創製したる本劑は發賣以來數多の服用實驗者によりて益々其眞價を認められ今や胃腸劑中の最高權威として白熱的の歡迎を受けつゝあり

●藥病 內服藥 ゴノキール 二週間分 五弗 四週間分 九弗 獨逸學博士ハフキン氏多年の研究によつて調製したる本劑は急性慢性の痲病に驚くべき効能あり內服藥なるが故に濃藥器を要せず

●梅毒 浮血 ビユーリン ハフキン博士 價 五弗 梅毒、浮血、ニキビ吹き出もの等は大百六號注射を要せず體內の毒氣を取得る家庭治療劑

●殺菌 セーフチーフアスト ハフキン博士 二弗・五弗 體温によつて二分にて解け總ての殺菌作用を減ずる確實なる除菌劑

●ゴム製品サック類 一打 一弗五十仙以上 七弗五十仙以上 ●纖能養育器 一週間分 五弗 ●安全イージー月さらへ 一箱差額 十弗

●男女強精トツカビン 通信販賣——費料不要 羅府東第一街一〇一 (Tel. MU 4616) THE IWAKI DRUG CO. 201 E. First St., L. A. Calif.

●ヴイタミンA 二弗 五弗 世界代表的榮養素として各國政府特許常國學 東京代表的榮養素として各國政府特許常國學

今週映書

木戸五十仙

羅府東一街三四 電話FA五七二〇

富士活動常設館

平日 午後七時より 土・日 午後二時より七時より二回

見るから血湧き肉躍る一大劍劇

舊名 無頼漢 改 雄呂血 阪東妻三郎一派總出演 全十二巻

無頼漢の名を以て試寫許可を願出たるに試映以て試寫許可を願出たるに試映の結果警察觀覽內容前の大激論となり高官巨星の見學者觀覽內容前の大激論となり高官巨星の見學者觀覽內容前の大激論となり高官巨星の見學者

フレスノ（十九日）

流汗淋漓として熱辯を振つた荒川翁

約二時間半に亘つた教育政治多交縦横談

昨夜八時荒川五郎翁講演会に傾聴者の埋ふまでの数十分を利用して坂本節吾氏の菊菊安定計畫の説明演説がありいよ〳〵聽衆滿堂（約六百名）となつたこの長岡重産氏の人念の開會辭に長谷川角藏氏の丁重な紹介をうけて翁は壯直の音吐と辯舌もまづ大御心を身に體し帝外に發展し居ら る諸君は御名譽の方々であること荒川五郎裏心より敬意をさゝぐることを冒頭し、およそ國土の狹小富源の缺乏はこれに處する國民の教育によりて補充し得べきものとなり教育家たる既往と政界にいりて廿幾年を戰ひたる事實を詳述し轉じて

▲日本外交の政策の確立せぬ間は、およびて當路者を痛撃し大向ふをうならしめその間は本人の器用は數千年は出しをつかひたる嘲なりフォークをつかふ西洋人の企及あたはぬ所以だとか……西洋人は銀色人種で日本人は金色人種だとか……興に乘じて警句を連続し

▲法律顧問調査委員會の背後に何ありはせぬか外交家は眼光紙背に徹せざるべからずゝ

▲明治大帝開國進取の聖旨は數千年は出しをつかひたる嘲なりフォークをつかふ西洋人の企及あたはぬ所以だとか……西洋人は銀色人種で日本人は金色人種だとか……興に乘じて警句を連続し

▲日本外交の政策の確立せぬ間は、およびて當路者を痛撃し大向ふをうならしめその間は本人の器用は數千年は出しをつかひたる嘲なりフォークをつかふ西洋人の企及あたはぬ所以だとか……西洋人は銀色人種で日本人は金色人種だとか……興に乘じて警句を連続し

▲法律顧問調査委員會の背後に何ありはせぬか外交家は眼光紙背に徹せざるべからずゝ

サクラメント（二十九日）

小使錢を儉約して肺療院に寄附の

醵金をすることに誓約す ペンリンの三團體の試み

北加十三郡に設立のウィマーの肺療院には冊數名の日本人患者が收容されているが其の中に他人種より日本人患者多く、とされ入院患者は後から押しよせてくるその肺療院に經濟は團體に寄附されて過日は宋氏同春に達せぬ日本人患者數名は聞き及ばれるやうに退院をせまされ同胞紳士の耳目を驚動し院内の一同胞患者からもそれら不運の退院患者に對する同情同慈悲を訴えなつたが これが收容を許さる駅態の遺族を代表して挨拶終つたが

●高井氏より寄附 高井誠吾氏より邦人婦人會に寄附の醵金を記念として左の譲渡に寄附

▲甘柿つゝ 浸禮教會、廣島縣人會

▲十柿つゝ 浸禮教會、廣島縣人會、同日曙學校、同幼稚園、體育會

▲五柿づゝ 救世軍、美以教會、佛教會、キリスト教平信徒團盟

▲ペンリンの青年會、ブラサ佛教所年會及ブラサ教少女會の幹部數名がおる十六日ブラサ青年會館に集合し右に關しウィマー肺療院に寄附の醵金をすべく協議したが先つその手はじめとして右二團體の會員約百名が各自の小使錢を倹約して自發的に寄附をすることに決し來る七月四日の

▲獨立祭日を以て第一回の締切りとするさうである。尚一般の同情者からも寄附の申しこみあらば喜んで取扱ふさもいつてゐる。この初一歩の人道的試みはその集めうる金額は少からんも若しこれによりて此の企てが幾分なりとも他地方の人々を刺戟し幸慶と思ふと、ブラサ青年會長の古谷正行君から通信あつたが近頃快心の事であらねばならぬ

澤山な書置し

行衛不明

山口縣人安永實藏氏

元桑港の藤本商會員であつた山口縣人安永實藏氏は當市岩國屋旅館に止宿のところ去る十五日の土曜夜以來行衛不明で心當りの捜索したけれども皆目居所判明せぬとて昨日館主から櫻府日本人會に捜索方を願ひいた。殺人、又は加害の事件でもあつてはと、室をしらべて見ると、澤山な書置してゐる中に智慧子様としてゐる婦人宛の手紙があつたが、それ

センター

倶樂部員の見學

本年度早馬鈴薯の耕作英加數減少

南部各州は昨年より二割方減小

スタクトン（十九日）

サンタフイの時間割變更

須市高校卒業式

某督敎學園修業式

櫻府ボーイスカウト第廿五小隊

御禮廣告

御禮廣告

御禮廣告

御禮廣告

御禮廣告

御禮廣告

痔疾

支那賭博場の檢擧

櫻府公認醫師

櫻府旅館業者

櫻府寫眞師

櫻府寫眞師

大山寫眞館

黑河寫眞館

竹本藥店

日の本旅館

日米須市支社

須市公認產婆

西本公認代理保險事務所

須市高校卒業式

須市高校卒業式

須市高校卒業式

A Newspaper For All Peoples Interested in the Welfare of Japan and The Japanese People

The Japanese American News

THE LARGEST JAPANESE NEWSPAPER PUBLISHED OUTSIDE OF JAPAN

The Largest English Section Published Daily by Any Japanese Paper On This Continent

NUMBER 10648. Entered at the Office as Secon atter. SAN FRANCISCO, CALIF., FRIDAY, JUNE 21, 1929.
Copyright 1928 By The Japanese American News
Per Month $ 1.00
Per Year $11.00

150 EXPECTED AT BUDDHIST GIRLS' MEET

North Calif. YWBA Gathers At Walnut Grove Saturday

Special to The Japanese American News

WALNUT GROVE, June 20—The Ninth Conference of Y. W. B. A. of Northern California will be held under the auspices of the Shiragiku Kwai of the local Buddhist Church, at the local Buddhist Temple on Saturday, June 23.

More than 150 delegates from the different organizations of the Buddhist faith will participate in the gathering. The main address of the day will be delivered by Rev. Herbert Terakawa, who will talk on the subject of "Who is the Real Buddha?"

The entire program of the day, as announced by Miss Rose Matsumoto and Miss Gladys Ioka, follows:

9:00-10:00 a. m. ..... Reception
10:00-11:30 a. m. ..... Sunday School
11:30-12:00 m. ..... Picture
1:30- 2:30 p. m. ..... Bus. meeting
12:00- 1:30 ..... Luncheon
2:30- 4:00 p. m. ..... Free period
4:00- 6:00 ..... Oratorical
6:15 ..... Banquet

Misses Florence Noyoshi, president of Shiragiku-Kwai, and Miss May Baba, vice-president, will take leading part in the conference.

The oratorical meeting, which is to take place in the Buddhist church, wfil be featured by many speakers representing their respective organizations. It is open to the public. An enjoyable social hour will follow the banquet.

Dinuba Epworthians Honor Grads With Swim, Weenie Party

Special to The Japanese American News

DINUBA, June 20—The local Epworth League Sponsored a swimming party in honor of the graduates last Saturday at Reedley Beach. Orosi and Dinuba Sunday schools were extended invitations, and the young people not only had a swimming party but also the many games prepared for them by the committee. There was also a weiner roast during the latter part of the afternoon.

The guests of honor were: George Kawano, Dinuba high school; Haru Tashiro, Orosi grammar; Miki Takusagawa, Orange Cove, grammar.

Heavy Rain Chokes Volcanic Region Of Southern Hokkaido

Special to The Japanese American News

HAKODATE, Japan, June 20—While thick black smoke is still pouring out of its crater, Mt. Komagadake calmed down from its violent eruption of a few days ago. In the midst of the clouds of ashes that are whirling down from the peak a heavy rain today swept thru this dsttrict and caused the land to become a blanket of impenetrable ash-mud.

STOCK'N TO FETE GRADS

Buddhist Clubs Plan Party Tonight At The Temple

Special to The Japanese American News

STOCKTON, June 20—A delightful graduation banquet will be held Friday evening, June 21, under the joint auspices of the local Y. M. B. A., Busy Bee Girls, and the Y. B. B. A., when they will honor the Japanese graduates of various schools of this city.

The committees in charge of this affair are arranging the program to make this one of the best social events of the season.

GRAMMAR SCHOOLS

Shizuko Tsushima, Hanako Shindo, Annie Kunii, Hazel Araki, Grace Fujii, Aiko Sato, Ruth Ishida, Kimiko Masai Kazuo Kawasaki Edward Ito, Teruo Uesugi, Hiroshi Fukuyama, Hironori Hirose, Hiroshi Honda, and Dick Matsui.

HIGH SCHOOL

Ted Ohashi, Alice Ohashi, George Isoda, and Vera Furuya.

NIPPON GAKUEN

Shozo Nishioka, Teruo Nishimoto, Katsumi Fujimori, Isao Arakawa, Shizuko Tsushima, Chizuko Okamoto, Hironori Hirose, Chizuko Fujii, Hanako Shindo, and Hifuko Fujishige.

COLLEGE OF PACIFIC

Bunji Omura and Norman Kishi.

HUGE POLICE BRIBE CASE STIRS TOKYO

Chief Is Accused Of Accepting 78,000 Yen Gift

Special to The Japanese American News

TOKYO, June 20—Even the blase Tokyo citizens who have been made indifferent to repeated political scandals that reoccurs periodically here are today somewhat startled by the revelation of a sensational bribery intrigue involving no less of a political figure than Mitsu Miyata, who as the head of the Metropolitan Police Bureau is the nominal guardian of peace of the Japanese Empire.

Investigation by the Attorney General Bureau revealed that Shin Hirawatari, a notorious figure of the capital, had made a "gift" of 78,000 yen in check to Miyata. Hirawatari, now being grilled by the authorities, made a confession that he made the gift with the understanding that Miyata was to use his official position to create a new licensed district in Wakayama. Then, after this tacit agreement was completed, Miyata made the startling discovery that the check was a forgery. Whereupon he immediately returned the check to Hirawatari. But the attempted bribery case leaked out to the prosecution bureau, and at present it is attracting attention of the entire city. It is probable that Miyata will be forced to resign.

Japanese Girl In Portland Launches Dress-Making Shop

Special to The Japanese American News

PORTLAND, June 20—As the first American girl of Japanese ancestry to start in the dress-making business, Miss Nobuko Miyamoto has opened a shop at 1633 Eighth Ave. of this city. She is the first girl of the rising generation to statrt in this line of business, and already she has won special mention in the different quarters here for her new creation.

Mr. Hirotsu and Miss Rokyuo Kanemura, Watsonville Couple, Wedded At Buddhist Temple In Accordance With Ancient Rites

WATSONVILLE, June 20—The wedding of Mr. T. Hirotsu, well known Japanese poet and Miss Rokuyo Kanemura, eldest daughter of Mr. and Mrs. S. Kanemura, which will take place Saturday afternoon at 1 o'clock at the local Buddhist church differs from the ordinary nuptials.

The interesting thing about this marriage is that Mr. Hirotsu, the groom-to-be, will take his bride elect's family name instead of the bride's taking her husband's name, as in the case of American marriages. After the marriage, the couple will be known as Mr. and Mrs. T. Kanemura instead of Mr. and Mrs. Hirotsu.

This custom of the husband's assuming his wife's name is a unique Japanese practice.

FAMILY NAME SACRED

Japanese people consider the family name a most sacred thing and the older the name becomes, the better it is. Naturally, the Japanese tries to continue the family's name for generations and generations by adopting a child to assume the name if there are no family heirs. In case the family has children, and they are all girls, the family will do "Muko-tori" or adopt a husband for one of the girls, usually, for the eldest, when she reaches a marriageable age, so that the sacred family name may live at least another generation.

No family allows the eldest son or the sole female heir of a family fall in love with an eldest son or a sole male heir of another family. It is almost impossible for these two lovers to get married no matter how much they love each other owing to that tradition.: Knowing that they cannot get married in this world, for the sake of the family, they sometimes commit "shinju" or double suicide with a romantic belief that they will be born in the next world where they will be free to marry.

OLD CUSTOM

However, Japan is changing rapidly. The old customs are gradually being cast away by the Americanized modern young generation, influenced by the American films which are shown in almost every corner of Japan today and it is said that there is now a decrease in tragedies.

Fortunately Mr. T. Hirotsu is the second son of Mr. and Mrs. Hirotsu and therefore he is eligible to be the adopted husband of the Kanemura family. The happy couple are planning to go to Los Angeles for their honeymoon.

Graf Zepplin Will Arrive At Nippon Airbase on July 18

Special to The Japanese American News

TOKYO, June 20—The Graf Zepplin, Germany's huge air liner, will arrive in Japan next month on its round-the-world flight, according to dispatches reaching here. The airship will arrive at the Kasumigaura naval airbase on July 18.

RODEO CITY HOLDS FETE

Graduation Party Is Held At Presbyterian Church

Special to The Japanese American News

SALINAS, June 19—In honor of the many high and grammar school graduates of this city, the local Japanese Presbyterian Church gave a graduation party last Friday night, in its beautifully decorated social hall.

Miss Edna Nagano, the hostess, and Gerald Kobayashi were chiefly responsible for the success of the party. The speakers of the evening were: Y. Kita representing the church, Mrs. Onoye from the Sunday school, Mrs. Teraji of Fujin-Kwai, Gerald Kobayashi of the Christian Endeavor Society, and the Rev. Mr. Inari, Norman Kobayashi, and "Doc" Harry Kita.

Miss Chiyo Endo and Minoru Endo responded for the grade school graduates, while Miss Dorothy Sugimoto and William Hasegawa thanked the host and the sponsorers in behalf the high school guests.

The guests of the evening were Miss Dorothy Sugimoto, Messrs. George Nagano, Paul Sugawara, Lloyd Urabe, William Hasegawa of the high school and Norman Kobayashi, the University of California graduate of the class of '29.

Besides these young people, there were twenty grammar school graduates.

They were: Tomiko Abe, Yoshio Abe, Chiyo Endo, Minoru Endo, Sumako Fukuda, Charles Ichikawa, Harry Iwashige, Chizuko Matsumune, Hisaye Matsumune, Kengo Nagano, Yoshiko Nakahara, Namiyo Sakai, Chiyeno Sakai, Kenichi Sato, Masako Sato, Kengi Shinamoto, Masao Shinamoto, Peter Sugawara, Tadao Toyoshima and Brown Yoshioka.

Tokyo Constructs Hall For Children Of Many Countries

Special to The Japanese American News

TOKYO, June 20—An "international children's hall," where future citizens of various nationalities may gather and mix in an atmosphere of friendliness and understanding, is being planned in Tokyo by the Imperial Society for Children's Education, with the hearty approval and assistance of the diplomatic corps of the capital.

The proposed children's hall will contain an auditorium, a gallery for various kinds of exhibits, reading rooms, and social rooms.

OUR JUNIOR SECTION

BIRTHDAY

George Morino

We have received a parcel of different kinds of salt from Misa Hara, in Utah. Many thanks, Misa. We are much interested in it, and are showing it to everyone near by. The Junior Editor of the Weekly would like to have you write about it, Misa, if you will. We have your pictures, which would help us to understand. Can you tell us how the salt is collected, and what is done to it to make it take the forms of these beautiful rock crystals and pure white regular blocks?

—Junior—

Lily Kuse writes that she is receiving letters from three Junior Club girls. Good.

These are from Lily:

—Junior—

As soft as silk,
As white as milk,
As bitter as gall,
As thick as a wa...
and a green coat covers me all.
Ans. A walnut.

—Junior—

Teacher: Johnny, please give us a sentence using "piquancy".

Johny, after a moment's thought: Ma asked me this morning if pa was awake yet and I said, "I'll take a peek an' see."—(From Boston Transcript.)

—Junior—

Louise Oki sends another excellent motto:

Be ye kind to one another,
Be true to people,
Be kind to dumb animals.

I will always keep myself clean and healthy.

Did you think of that yourself, Louise? It is full of fine help for us. Try writing to each new member.

—Junior—

Two riddles from Louise:

Ten men's length, ten men's strength.
Ans. Rope.

—Junior—

Round on both sides and high in the middle.
Ans. O-hi-o.

SUMMER DIARY

By A SACRAMENTAN

VACAVILLE, June 18—As soon as the college was out I went over to see Mr. Hayashida of the California Packing Corporation at the 2nd and P streets if there were any summer job for a student. He replied, "No." as I expected. But what got me angry was that he laughed when he replied. He thought I was joking, while in fact, I was deadly serious because I know the work was scarce this year.

Went all over the town. No job. A friend advised me to go out in the country and see "bosses" personally. I hate to beg for anything; work is no exception. Another friend suggested that I write to one of his friends in Vacaville for work in a Japanese ranch. He gave me his friend's name and address. I wrote to that person and asked him to let me know if there were any work in Vacaville. I din't hear from him for a while. I deduced that there was no work as I expected, and I thought I'd never find one this summer.

One morning while I was in bed about 9 o'clock, I was suddenly awakened by the call of a man from Vacaville. He told me that he's got a job and came after me. I was quite amazed. He told me that the man to whom I wrote told him about my looking for a job, and looked for one and found it. I was glad because I needed some money to go to college next year. And to make money means work. The man told me that he got an ice-cream parlor in Vacaville and he came to Sacramento to buy some water-melons that day. I got in his "can". He brought me to this ranch of Mr. T. I asked how much does he charge for all the trouble he's gone through. "Work, and save money, boy!" he told me.

Mr. T. is a genial man, and is a typical Japanese farmer of California. The ranch is not so big, but mountainous. This is going to be a hard job handling ladders, I thought.

PAIR UNITED IN BEAUTIFUL SAC'TO RITES

Miss Yamada Became Bride of Mr. Miura At Church

Special to The Japanese American News

SACRAMENTO, June 20—At one of the loveliest June Weddings held in this city Miss Helen S. Yamada became the bride of Mr. Roy Kaoru Miura. The ceremony was performed by the Rev. Mr. Hijikata at the Sacramento Baptist church on Saturday afternoon, June 15.

The bride was attended by Mrs. K. Hirosawa, as matron of honor, and the four bridesmaids were: Miss Alice Yamada, Miss Edith Tsukamoto, Mrs. Hashisaka, and Mrs. Roy Onga.

Mr. Harry Masaki was best man, and Messrs. K. Hirosawa, Percy Miura, Asao Takata, and George Akahoshi acted as ushers.

Lustrous white crepe satin was the material chosen for the bride's gown, which was ornamented with a single rhinestone clasp. She wore a beautiful veil of tulle edged with lace, and her coronet was made of lace and trimmed with rhinestones and orange blossoms. White roses and lilies of the valley made up the bridal bouquet.

Mrs. Hirosawa, the matron of honor, wore soft grey chiffon and carried a bouquet of American Beauty roses. The bridesmaids were all dressed in charming frocks of lavendar taffeta and carried pink flowers.

There were also two flower girls —Barbara and Dorothy Yamada, carried the veil. Little Hajime Miura was the ring bearer. The wedding march was played by Mrs. Barry Tsuda.

A reception was held at the Yayoi-Tei that evening, following which the newleyweds left on a honeymoon trip to the southern part of the state.

Showa Board Of Directors To Hold Meet Friday Night

The Board of Directors of the Showa Club will hold its mid-summer meeting tonight (Friday) in the third-floor meeting hall of the new club house on Bush street. The club will finish its old business and plan for the summer and winter sports at this session.

Big July 4 Program Will Be Given By JOAK Broadcast

Special to The Japanese American News

TOKYO, June 20—The JOAK, Japan's most popular broadcasting station, will commemorate July 4 with a distinguished Independence Day radio program as an expression of Japanese interest in the national holiday of the United States, it was learned here today.

With prominent artists culled from the capital, the affair is expected to evoke much interest from the thousands of radio fans all over the country. The program opens with the singing of the "Star Spangled Banners," and this will be followed with lectures on the birth of the American nation. Popular American songs as well as old familiar melodies of the New World are also planned. The program ends with some music on the samisen and shakuhachi by popular Japanese artists.

The Independence Day program was conducted last year, and it received so much acclaim that it is repeated this year on a bigger scale and with more prominent artists engaged for the occasion.

S. F. IS SCENE OF NUPITIAL

Mr. Todoroki Wedded To Miss Moriyasu Of Salinas

Miss Ayako Moriyasu and Mr. Toshiaki Todoroki were wedded at the First Reformed Church Saturday evening. The wedding was solemnized by the Rev. Mr. Kowta, pastor of the church.

The reception was held in the social room. More than three hundred friends and relatives were in attendance.

Mr. Todoroki is proprietor of the San Francisco Weekly. The bride is a native of San Juan.

Local YWBA To Stage Social For Grads Wednesday

The graduation party planned for tonight (Friday) by the Buddhist young people of this city is postponed until next Wednesday evening.

The affair is being postponed out of deference to the memory of Shigeo Hagiwara, a member of the Y. M. B. A., who passed away late Wednesday afternoon.

MODERN TREND OF JAPAN LITERATURE IS OUTLINED

By KAKU ARAI

Our literature has been remarkably popularized of late. The chief cause for this rapidly-growing tendency toward the popularization of literature is to be ascribed to the appearance of "enpon" or cheap edition and its rapid development. Hitherto literary works were introduced into reading circles chiefly through the medium of the literary magazine, or were published in book form (in which case the number did not exceed 3,000 at most for one edition). Consequently the circulation had been comparatively small before the "epon" series made its appearance, which has enlarged the reading circle enormously. At present "enpon" series seem to have made a separate-volume edition next to impossible, though we need not, it appears to me, be pessimistic about it, for it is quite natural that those who have once been aroused to take interest in literature through "enpon" series wil surely go further to the more expensive but better-edited separate-volume. Since the advent of "enpon" the income of the writer has increased by leaps and bounds, such an income as he never dared to dream before. The manner of living of the literary men in general has also been very much elevated lately. Before this unlooked-for "boom" in the literary world it was quite seldom for men of letters to live in their own houses, unless they were fortunate enough to inherit them from their fathers. Today most of them own their own houses (according to the statistics taken of late, more than half of the writers of tolerable reputation are rich enough to buy houses to live in). A few of them, indeed, keep even motor cars for their own use. We know that Anatole France lived like a prince and Anrie Balveus, the well-known "proletarian", lives in the lap of luxury. We must acknowledge that our men of letters are scarcely to be compared with those in foreign countries so far as it concerns their material prosperity and success. But when we remember the former days in which our men of letters lived, and how they used to live in want, with little hope of ever living an easy life by the pen, they may be said to have gained an unprecedented success, which they little dreamed of a few years ago. The success of "enpon" has thus given our men of letters an unexpected opportunity of making a fortune by the effort of their pen, though it may prove rather transient, and they are for the first time able to buy houses or even make a pleasure tour of the world. The copy-money has also been raised enormously of late, particularly for those who write for the woman's popular magazines.

"ENPON PARVENUES"

In this manner, when we take an extensive view of our literary world of today we come to understand that the most fortunate writers who have profited themselves at this literary "boom" are the "enpon parvenues," the so-called "popular" novelists, who are contributing their stories to the newspaper or to the woman's popular magazine, and those writers who are called "commonalty" novelists. It is said that both the "popular" and "commonalty" writers who are producing rather in great quantity enjoy a fixed income of several thousand yen per month. They are Kan Kikuchi, O. Mikami, B. Nakamura, T. Kato and M. Kume, who belong to the school of the "popular" novelist, while M. Hosoda, S. Okada, S. Togawa, K. Kunieda, K. Kondo, etc., are novitiates of the same school. S. Tokuda, J. Satomi, S. Kamitsuka and M. Ojima are also to be regarded as of them. Such writers as Kume and Kikuchi are noted for both their "popular" novels and pure literary works, while the works of such as J. Tanizaki, Y. Motomura, or S. Tokuda, though written in serial, can hardly be called "popular".

Here we may pause for a moment and say a few words about the latest works of Kume and Kikuchi. They haven't both given us of late any work worthy of real merit, speaking from a literary point of view. Even this "Uwasa-no-hassei" which still contains the force of his inimitable pithiness, lacks his original power of imagination and dexterity in plot-making. Kume also exposes his weakness in the same manner in his latest works. This shows that there is no royal road to their master-pieces; in other words, their present easy life has spoiled them, and their literary works have degenerated, losing their former strength and depth.

It seems to me that the "popular" novel of today stands just now in a turning point. Y. Yamamoto's latest novel published in both Tokyo and Osaka Asahi was welcomed and much appreciated by his readers, though he wrote it with little regard to the opinion of the public. His success proves that it is no more necessary that the hero or heroine of a "popular" novel should always be drawn as an ideal beauty, and at the same time that even for the newspaper, that is, for the serial story, the standard of literature need not be necessarily lowered any more. It is indeed a note-worthy fact that the trend of the times is that the writer has no more to exert himself to wheedle the reading public. We must acknowledge that the "commonalty" literature has also begun to reflect its real artistic colour in the new tendency. J. Osaraki's "Ako-Gishi" is a good example to illustrate it. This tendency towards the artistic endeavour, slight as it is yet, must be regarded as a promising sign. I have, for a long time, been expecting the appearance of some masterly novel that will portray Japan as what she is at this moment, as a country so much complicated in matters social, political, moral and religious, etc. However, I am so far disappointed in my expectation. Most of the "popular" novels are still written merely to please the reading public. Some of the far-sighted "popular" writers must have already realized the necessity of making a speedy improvement in this direction. M. Nakamura is one, I think, who has great concern for the future of our literary world.

(To be continued)

NOTED JAPAN EXPERTS TO ARRIVE HERE

Social Workers Will Meet For National Conference

Word has been received from Tokyo that a distinguished delegation of prominent Japanese criminologists, legal officers and leaders of social work in that country will arrive in San Francisco on June 24 on the N. Y. K. liner Taiyo Maru to attend the annual meeting of the National Conference of Social Work which opens ten days session here on June 26.

The delegation of Oriental men will include Judge Kyuhei Koiwai of the Osaka Juvenile Court, Shirosuke Arima, ex-warden of the Toyotama Prison, Sumihiko Arima, director of the Yokohama Katei Gakuen (a reformatory for girls), Takayoshi Kitamura, vice-president of Hiroshima Shudoin (an orphanage of Tokyo, Naokichi Nakamura, legal officer of the Hyogo Prefecture, Yoshikichi Kimura, chief of the social work department of Kobe and Taizo Ashiya, executive secretary of the Japanese Boy-Scout Federation.

Among the women delegates will be Miss Yoshi Shodo of the Japan's Women's University, Tokyo, who will represent the Japanese Council of the Institute of Pacific Relations and Miss Takeko Hosoda, matron of the Charity Association of Osaka

The San Francisco Chronicle, leading San Francisco paper, gives the following account of these two social workers:

"Miss Shoda is well known in America, having spent some fifteen years in this country. She is a graduate of Columbia University, holding several degrees including a Ph. D. Mrs. K. Abiko of this city, herself inclose touch with the activities of women of Japan, is a personal friend of Miss Shoda and knows of the difficulties encountered by her and other Japanese feminine educators.

"'These women,' she declared yesterday, 'are making a great struggle and what they are accomplishing they are accomplishing alone without the help and support of the men, although women are gradually awakening men to the value of higher education for women. Even now only one-third of the Japanese colleges permit women to enroll, but the Japanese women are taking every advantage of that one-third. American women still are their inspiration. They have received for help from America than they have from either England or France and it has been given through social work.'"

Just what social work has done for Japan in a general way, and more particularly what effect it has had on the status of Japanese women will be discussed at the conference by the two delegates who are arriving Monday.

Mrs. Robert Hugh Ronaldson, president of the San Francisco, branch of the Needlework Guild of America and Mrs. L. A. Dyke, president of the Oakland branch, are to be delegates from the guild to the National Conference of Social Work. Announcement of their appointment as delegates came from the guild's national executive board yesterday.

THE WEATHER

OFFICIAL FORECAST:

FRIDAY—Fair and warmer. Moderate northeasterly winds.

$1,000 in Cash Given Away!

To Readers of
The Japanese American News
and
L. A. Japanese American

In Astounding Contest

June 1 to August 31

The Japanese American News, always a guardian and helper of the second generation young people, has launched a huge plan to give away $1,000 in cash to our readers.

The project is one of the most attractive and astounding offers ever undertaken by any Japanese newspaper on the Pacific Coast.

The contest is open to ALL OUR READERS, regardless whether they are our subscribers or not.

Many of our readers are students, who would like to earn money during the summe vacation in order to carry them through the next school term. By a little industry they may win not only the cash prize but also the cash premium which goes with each subscription.

Here are the prizes in The Japanese American News subscription contest:

First Prize	$500
Second Prize	$250
Third Prize	$100
Fourth Prize	$ 50
Fifth Prize	$ 25
Sixth to tenth prizes, inclusive, $15 each	$ 75

Our contest involves no complicated rules. It is simplicity in itself. Here are the rules:

1. **The contest will be conducted on the point system. Contestants attaining the highest points win the prizes in their respective order.**
2. **Those desiring to enter the contest must send in the applications, together with three one-year subscriptions or six half-year subscriptions, to the Subscription Contest Manager. These applications may be sent either direct to The Japanese American News, 650 Ellis Street, San Francisco, or to one of the branch offices of this paper.**
3. **Each qualified contestant will be given 1,500 points to start with.**
4. **All subscriptions must be for either The Japanese American News of San Francisco or The Los Angeles Japanese American News, or both. The subscriptions must be PAID IN ADVANCE, and they MUST BE NEW SUBSCRIPTIONS.**
5. **From the fourth to the tenth subscriptions one thousand points will be given each one-year subscription. Two half-year subscriptions will count as one one-year subscription.**
6. **From the eleventh to the twentieth subscription, fifteen hundred points will be given each one-year subscription.**
7. **For all subscriptions above this number, 3,000 points will be given each one-year subscription, or 1,500 points for each half-year subscription.**
8. **Besides these points toward the prizes, cash premiums of $2 will be given for each one-year subscription or $1 for each half-year subscription.**
9. **The contest opens June 1 and closes on August 31**